慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社　アイペック

1992年春，株式会社アイペックは，その取引銀行に対して10億円の借入の申し込みをしたいと考えていた。

アイペック社の歴史

アイペック社の社長である尾河氏（1939年生）は，1962年に大学を卒業後，中堅の商事会社に就職した。1965年には，日本のタイム・インクに転職した。入社後，広報局員として雑誌のホワイト・スペースを販売することを担当したが，その成績を評価されて，1年4カ月で広報部長に大抜擢された。1972年には教育事業部長兼タイムライフ教育システム取締役に昇進した。1976年，尾河氏は，タイムライフ教育システム社の社長に就任した。さらに1976年，尾河氏はタイムライフブックス・インクの社長に抜擢され，月刊誌の出版と，教材の販売に携わった。1980年にはタイムライフブックス社のアジア総支配人の社長に就任した。しかし，尾河氏はアメリカ的な短視眼的経営に対する不満を募らせるようになった。そこで，1983年1月，43歳になったのを機に，尾河氏はタイムライフブック社を退職した。尾河氏は，その年の4月に，講談社やイ・アイ・イ開発の出資を仰いで，資本金1億円でもってアイペック社（International Publishing, Education & Communication の頭文字をとった社名）を設立し，「映像・音響・文字を基盤とした新時代の総合情報企業」を目指すことにした。この時，約 260人がタイムライフ・インク（当時の社員数 600人程度）を辞めて，アイペック社に加わった。

最初，尾河氏は，ビジネスマン向けの語学研修受託事業を始めた。すなわち，アイペックは，先生を顧客企業に派遣して，顧客企業の社員のための語学研修プログラムを受

このケースは，慶応義塾大学大学院経営管理研究科教授の鈴木貞彦が，同大学院でのクラス討議のために公表資料に基づいて作成したものである。このケースは，経営の巧拙を例示するためのものではない。

Copyright © 1995 by Professor Sadahiko Suzuki of Graduate School of Business Administration, Keio University, Japan. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, used in a spreadsheet, or transmitted in any form or by any means - electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise - without the permission of the author.

（1995年12月作成）